

# 水稲栽培基本情報（穂肥）

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiku/index.html>

千葉県農林水産部  
平成28年6月

## ■穂肥の適期実施

穂肥は適期に実施しましょう。

施肥量は、幼穂形成期の目標生育量（表1）を参考に、葉色が濃い場合は減らしましょう。

### ○「ふさおとめ」の穂肥

「ふさおとめ」は穂肥が遅れると玄米中のタンパク含量が増加し、食味の低下を招くので、穂肥は幼穂形成期（出穂前25日）～幼穂形成期後7日頃（幼穂長が1mm～1cm）に施用しましょう。施肥量は、砂質土や壤質土では窒素と加里を10a当たり成分量で各3kgです。房総南部の粘質土では1～2kgが目安です。

### ○「ふさこがね」の穂肥

「ふさこがね」の穂肥適期は幼穂形成期後7日頃（幼穂長が1cm）です。施肥量は、窒素と加里を10a当たり成分量で各3kgです。

### ○「コシヒカリ」の穂肥

「コシヒカリ」の穂肥施用適期は幼穂形成期後7日頃～幼穂形成期後15日頃（幼穂長が1cm～8cm）です。なお、穂肥の施用時期が早いと倒伏や籾数過剰による登熟不良や玄米外観品質低下を招くおそれがあります。

表1 幼穂形成期の目標生育量

品種	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )			葉色 (カラー スケール値)
		砂質	壤質	粘質	
ふさおとめ	55 以下	570～620 (31～34 本)		520～570 (29～31 本)	4.0
ふさこがね	60～65 以下	450～500 (25～27 本/株)			5.0
コシヒカリ	70 以下	430～560 (23～30 本/株)			3.5～4.0

※茎数の（ ）内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安

## ○コシヒカリの施肥加減等の判断方法

幼穂形成期に茎数が多かったり、葉色が濃かったりする場合は穂肥の減量や施用時期を遅らせる必要があります。診断方法は表2を参照してください。

表2 幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥・倒伏軽減剤の要否判定

葉色 (SPAD 値) ×茎数/㎡	草丈 (cm)	予測される 生育・収量	対策		
			穂肥加減	穂肥時期	倒伏軽減剤
16,000 以下	70cm 未満	籾数が不足しやや減収	増肥、または時期を 2~3日早める。		×
16,000 ~20,000	70~80cm	目標どおりの生育が期待	標準量※	標準	×
		稈長が伸び、倒伏が心配	標準量※	標準	必要
20,000 ~27,000	75cm 未満	籾数過剰となり、乳白米 の発生が心配	減肥（窒素施用量 1~ 2kg/10a）、 または時期を遅らせる。		×
	75~82cm	稈長が伸び、倒伏が心配	×	×	必要

※穂肥の標準成分量：窒素 砂質土3~4kg、壤質土3kg、房総南部の粘質土2kg（10a 当たり）  
加里 3kg（10a 当たり）

＜参考＞コシヒカリにおけるカラースケール値と SPAD 値の関係

カラースケール値	3	3.5	4	4.5	5
SPAD 値	24.8	28.7	32.6	36.4	40.3

## ○倒伏軽減対策

表3を参照し、倒伏が懸念される場合は倒伏軽減剤の使用を検討しましょう。

表3 主な倒伏軽減剤

薬剤名	使用時期/使用回数	10a 当たり散布量	処理方法
ロミカ粒剤	出穂 25~10 日前まで/1 回	2~3kg	湛水散布
スマレクト粒剤	出穂 20~7 日前/1 回	2~3kg	湛水散布
ビビフルフロアブル	出穂 10~2 日前/1 回	75~100ml	茎葉散布

※平成28年6月1日現在の登録内容

（使用にあたっては、ラベルをよく読んで、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などを確認し、適正に使用しましょう。）